

アウト・オブ・民藝

「民」から芋づる編 MINGEI のB面!
会場・生活工房ギャラリー(三軒茶屋駅直結・キャロットタワー3階)

みんげい(民藝)(名) ●民衆藝術。●民俗藝術。

みんしゅう(民衆)(名) ●世間一般の人民。多くの民。●プロレタリア。大衆。―かく(民衆化)(名) 民衆に同化する事。民衆の物事になる事。―げいじゅつ(民衆藝術)(名) ●一般民衆の作り出した藝術品。名のある藝術家の作にかからぬ作品。民藝。●一部の特権有階級に偏占されてある藝術を、一般民衆のものたらしめんとして生まれた藝術。―こらく(民衆娯楽)(名) 廣く一般の人人に理解し享樂せられる娯樂。―てき(民衆的)(名) ●民衆に關係ある事。

民衆藝術

みんかん(民間)(名) 人民の社會。普通人の社會。坊間。(官府の對)
みんかんてんしょう(民間傳承)(名) 古來上流社會にあらざる庶民間に、歴史の記述の外にあって、傳來した種種の習俗・口碑・心理等をいふ。

大震災の直後に渡歐の旅立ちをした私の見聞に關する限りでは、民俗學といふ言葉は未だなくて郷土研究といふ言葉が一般的に用ひられ、また、民藝と言はないで農民美術と言ふのが普通であつた。

森口多留「民藝と藝術」序文(1942)

郷土研究

民俗藝術

みんぞく(民俗)(名) 人民の風俗。民間のならはし。―がく(民俗學)(名) (Folklore) 民間に傳はつた風俗・習慣・傳説・心意・信仰等を科學的に研究する學問。民間傳承論。―げいじゅつ(民俗藝術)(名) 民間に傳はり、民間の手になる即ち民俗學的の藝術。郷土藝術も同じ意に用ひられる。

郷土藝術

のうみん(農民)(名) 農業に従事する民。百姓。―げいじゅつ(農民藝術)(名) (農文) 農民文學。●美 農民美術。―そう(農民層)(名) 【社】農民の階級を形成する層。大農・中農・小農・貧農・農業労働者等。―びじゅつ(農民美術)(名) 【美】農民の製作した工藝品。木・竹・革等の細工物及び陶磁器類で、素材で郷土的色彩を特徴とする。

農民美術

みんげい(民藝) 庶民の生活の中から生まれた、郷土的な工藝。実用性と素朴な美とが愛好される。民衆的工藝。大正末期、柳宗悦の遺語。―うんどう(民芸運動) 日用の雑器に美的価値を見出し活用しようとする運動。大正末期から柳宗悦・河井寛次郎・浜田庄司らが提唱・推進した。―ひん(民芸品) 庶民の生活から生まれた、地方色豊かな手工芸品。

『民藝』第七版(2018)より

みんぞく(民族)(名) 人種を地理學的・文化的即ち習俗言語等によって區分したもの。―うんどう(民族運動)(名) 【政】國を異にして散在する同一民族が、互に合體して一大民族國家を建設せんとする運動。また他民族の國家に壓迫されてある少數民族が、その壓迫を脱して獨立せんとする運動。―がく(民族學)(名) 【社】(Ethnology) 一般未開の原始的生活をなしてある民族の文化の全貌を、科學的に研究しようとする學問。一國內の習俗風を研究する民俗學(Ethnology)と似てゐるが、對象を異にしてゐる。土俗學。

民族學

みんよう(民謡)(名) 民族の歌謡。民衆の間に生じ、自然に洗煉されてその生活・感情を素朴に反映した歌謡。これを田植歌・草取歌・米搗歌・桑摘歌・茶摘歌・馬子歌・舟歌等の如く、ある種の労働に統一とリズムを與へる労働歌、新婦式歌、新築歌、祭禮歌、大漁節の如き祝賀歌及び舞踊に附隨する踊歌に分け、これに手鞠歌・子守歌等を合すればその数は幾百千に達する。現今は、廣く地方色を帯びた新作歌謡をも含めていふ。

民謡

へいみん(平民)(名) ●官位なき普通の人民。

平民工藝

げてもの(下手物)(名) 【美】みんしゅうげいじゅつ(民衆藝術)。みんげい(民藝)。

上記「民謡」げてもの」という語を最初にとりあげた『民謡』(1930)より 民謡=民衆的工藝とは書かれていない。

軸原ヨウスケと中村裕太 OUT OF MINGEI Dig up the Folk, The B-side of MINGEI!

2024.4.29 MON 8.25 SUN 9:00-21:00 入場無料 月曜休み(祝・休日は除く)

生活工房 Lifestyle Design Center